

1 単元名 安心して過ごせる社会を創るために～障がい者理解を中心に考える～

2 単元の目標

- 地域人材や地域資源を通して、障がいのある暮らしについて知ることができる。
また、他者と獲得した知識を共有し合い、ユニバーサルデザインを考えることができる。
(知識・技能)
- 獲得した知識をもとに自ら課題を見だし、誰もが「安心」して暮らすことのできる社会を創るための具体案を考えたり、実際に自分たちで考えたことを実践したりすることができる。
(思考・判断・表現)
- 実生活から生まれた課題を解決する方法を見つけるうえで、自分たちが生きる社会の未来を考え、主体的に社会に参画しようとするすることができる。また、学習するなかで他者と協働したり、他者の意見を生かし合ったりすることができる。
(主体的に学習に取り組む態度)

3 単元について

(1) 教材観

老上中学校では、伝統的に人権学習に重点を置き、生徒の人権意識の醸成に取り組んでいる。また、学校スローガンとして、「考動」「幸動」として二つの「こうどう」を学校経営計画に位置付けている。前者では、自主的に考え、正しく判断して動くことを意味している。「考えて動く」ことをしていき、自分自身で考え、仲間と協力し合いながらよりよい方向に向かって物事を取捨選択していくことを目標とする。後者では、自分や周りの人たちが「幸せになるために動く」「幸せを生み出すために動く」という意味で、一人ひとりが幸せに暮らすことを目標としている。この二つの「こうどう」は持続可能な社会の創り手を育成と他のウェルビーイングの向上に不可欠である。

そこで本単元では、この「老上中学校」の人権学習と学校スローガンに注目し考えた。現在でも、多様な人権侵害、差別問題が取り上げられる。「誰もが『安心』して暮らせる世の中とはどのような社会なのだろうか?」、「心地よく暮らせる社会をどのように創っていくのか?」という視点で学習を進める。実際に地域の方々との交流や、障がい体験を通して自分たちの目で見て感じる時間を取る。自分たちの生きていく社会だからこそ、これからの未来をより自分事として考えることができる。また、他者と交流することを通して、コミュニケーションスキルの向上を図ることができる。

本単元は、人権について考えていくなかで、自分の生き方と重ね合わせ、これからの社会をよりよく幸せに暮らしていく方法を考えることができるというよさがある。

(2) 生徒観

本学年の生徒は、今年度、人権学習において、「いじめ」「部落差別」について学習をしており3年間を通して、計画的に段階的に多様な差別について学習を進めている。どの学習でも、この問題は身近で起こりうるかもしれないという視点を持ち、自分事として生徒は取り組んでいる。学習での問いについては他者と交流し合い自分の意見を出し合う活動を行ってきた。自分たちで問題への解決方法を他者と協働しながら考えるということに意欲をもって取り組むことができている。

今回、「自分たちが生きていく社会を『誰もが安心して暮らせる社会にする』にはどうしたらいいか」を中心発問として、他者と交流をしながら学習を進める。自分たちが生きていく社会で自分にできることを協働的に考え、行動力・実践力を付けていくために、本単元を学習する意義は大きいと考える。

(3) 指導観

本単元の指導にあたっては、まず生徒たちに「あなたはいつ『安心』だと感じるか?」

という問いから安心な世の中について思いを馳せる。そして、障がい者理解を中心に学びを進め、差別のない誰もが「安心」して幸せに暮らすことのできる社会を考えていく。次に、障がいについて学び、実際に障がい体験をする。そこで、感じたことや考えたことをまとめる。年齢・性別・国籍・障がい関係なく誰もが使いやすいユニバーサルデザインを広めることで、これからの社会が生きやすくなることを感じさせる。グループワークとして、自分たちで具体案を考え実際に行動に移す。そして、できた成果物を提案する準備をする。産官民学へ自分たちが考え実践したものをプレゼンテーションとしてまとめ提案する。そのなかで、生徒が自分の言葉で発信できるようにする。

最終、生徒たちが提案した成果物は、まちづくりセンターや市役所、学校等で発信できるようにする。自分たちが自分たちの住む町を変えていく、貢献しているという達成感を持たせ、これからも生きていく自分たちの社会をよりよくしていくという態度を育む。

(4) ESDとの関連

・本学習で働かせるESDの視点（見方・考え方）

公平性…私たちが生きていく社会について誰もが公平に過ごすことができる。

責任性…人権問題を誰かに任せるのではなく一人ひとりが責任をもってやり遂げる。

・本学習を通して育てたいESDの資質・能力

批判的に考える力

様々な事象に対して疑問を持ち、誰もが安心できる社会を考えることができる。

コミュニケーションを行う力

多くの人と意見を交流し合いながら、新しい考えを生み出したり、まとめたりすることができる。

進んで参加する態度

これからの社会をよりよくしようとするために行動できる。

・本学習で変容を促すESDの価値観

人権・文化を尊重する（文化多様性の尊重）

一人ひとりの人権に目を向け、誰もが尊重し合える世の中にする。

幸福感に敏感になる。幸福感を重視する。

自分たちの手で、今、そしてこれから生きていく社会をよりよくし、人生が豊かになるようにする。

・達成が期待されるSDGs

10 人や国の不平等をなくそう

16 平和と公正をすべての人に

4 単元の評価規準

(7) 知識及び技能	(イ) 思考力・判断力・表現力等	(ウ) 主体的に学習に取り組む態度
① 「障がい」について知るとともに現在の課題について理解している。 ② 学んだり、調べたりして獲得した知識を、言葉や図、絵等を用いて、それらに関係づけながらまとめる技能を身につけている。	① 調べたことから課題を見だし、誰もが使いやすいユニバーサルデザインを考えている。 ② 自分が考えた方策についてまとめプレゼンテーションしている。	① 「安心」できる社会を創りたいという目的意識を持ち、意欲的に活動に参加しようとしている。 ② 他者との交流や協働を通して、自分たちの生きる社会の未来を考え、社会に参画しようとしている。

5 単元の指導計画（全10時間）

学習活動	○学習への支援	評価・備考
<p>1 安心な社会について思いを馳せる ・「あなたはいつ『安心』だと感じるか？」という問いから、自分たちの考えを話し合う。 身の危険がない 居場所がある いじめや差別がない</p>	<p>○人それぞれ感じ方が違うことをとらえる。 ○今、生きる社会を誰もが「安心」できているのか考える。 ○本単元を通して、「誰もが安心して、心地よく暮らせる社会を創っていく」という見通しを持たせる。</p>	<p>ウ①② （主体的） （1時間）</p>
<p>2 障がいについて学ぶ ・「障がいとはどのようなものだろうか？」という問いから障がいについてまとめ調べる。 ・多様な障がいについて自身で調べたり他者と交流したりしながら知る。 ・障がい体験をする。 草津市役所 福祉部 障害福祉課</p>	<p>○「障がい」には多様な種類があることに気付く。 ○体験など障がいについて知ること自身で自身の周りにも困っている人がいるかもしれないという思いをもたせる。 ○今後、自分や家族、友達など周りの人たちも障がいをもつ可能性があることから障がいを自分事にする。</p>	<p>ア① （知・技） （3時間）</p>
<p>3 学び合う ・「すべての人が『安心』して暮らすことのできる社会には何が必要だろうか？」という問いから自分の考えを出す。 ・体験を通して学んだことを交流し合う。 ・ユニバーサルデザインについて紹介する。</p>	<p>○障がいをもつ人だけでなく、誰もが「安心」を感じられる世の中になりたいという思いを持たせる。 ○年齢・性別・国籍・障がい関係なく誰もが使いやすいユニバーサルデザインを広めることで、これからの社会が生きやすくなることを感じさせる。</p>	<p>イ① （思判表） （1時間）</p>
<p>4 伝える・行動する ・「新たにユニバーサルデザインを作る」という課題をこなし、まとめる。そして、産官民学へのプレゼンテーションを学年で行う。 ・班でユニバーサルデザインの提案をする。 ・プレゼンテーションの内容を決める。班ごとにプレゼンテーションを考え、最も良いプレゼンをクラスで選ぶ。代表になった班は学年の前で発表する。</p>	<p>○ユニバーサルデザインの7原則を抑える。 ○他者と交流し合いながら、ユニバーサルデザインを提案する。 ○放課後を利用し、老上中学校ではどのようなユニバーサルデザインがあるのか調べる。 ○発表するのに際し、聞き手に伝わるようにするために大切なことはどのようなことか、各班で考えさせ、繰り返し練習をさせる。 提示物（創作物） 声量 ジェスチャー 抑揚 指さし 目線 など</p>	<p>ア② （知・技） イ①② （思判表） （4時間）</p>

<p>5単元の振り返りをする。 ・「これからの社会をどのように変えていきたいか?」という問いをもとに単元の振り返りをする。</p>	<p>○単元を振り返るなかで1時間目からの変容に気付かせる。</p>	<p>ウ①② (主体的) (1時間)</p>
---	------------------------------------	---

6 成果と課題

【本実践にあたって】

昨今、あらゆる差別が問題となっている。部落差別や、外国人差別、ジェンダー問題など多種多様であり、また複雑化している。中学生においても、SNSの普及もあり、様々な情報が飛び交う中で、身の周りに差別事象が起きていると推測される。自分たちが知らないということは無意識のうちに他者を差別し傷つけてしまっているかもしれない。だからこそ、正しい知識を身に付け、自分だけでなく、他者とつながりながら、この課題をとらえ差別問題の解消に関わっていかねばいけない。持続可能な社会を創ることに向けて、地域、そして、世界とつながることを意識し、自他のウェルビーイングの向上を促進していきたい。ESDに視点を置き、「人権学習」を行うことは持続可能な社会の創り手を育成する上で不可欠であると考えます。このことをコンセプトにおき、本授業実践に取り組んだ。以下に成果と課題を示す。

成果

本単元では「人権学習」を「自分事」として考えるところから始めた。自分たちが考えていく問題であるにとらえるために、「安心」という抽象的な事象についてそれぞれの考えを交流した。やはり、抽象的なことを具体性のもつものに変えることで、それぞれの価値観が浮き彫りになる。その考えをもとにして、今回のテーマ、ねらいである「誰もが安心して、心地よく暮らせる社会を創っていく」というところにつなげた。自分の生きる地域、社会がよりよくなるために、そして、自分自身が生きやすくなるために学習するという課題意識を単元の始めにもたすことができたことが良かった。生徒は課題意識を持つことで、「自分ならこうしたい」や、他者との交流を通して新たに気付いたことから「その考え方もできる」のように多面的に考えることができるようになった。また、他者との交流を通して、「なぜだろう?」という疑問をもつことができていた。交流に積極的に参加する様子も見られ、課題設定の重要性を感じた。

そして、障がい者について理解し学ぶところをきっかけとし、広い視野で物事を考えるところもねらいとした。「誰もが安心して、心地よく暮らせる社会を創っていく」という課題で学習を進めることで、ユニバーサルデザインを考えることは生徒の意欲を掻き立てるものとなった。教員主導でなく、生徒主体で提案を考えることで、自然とコミュニケーションを図ることができていた。交流の中から、新たな考えに気付くことができたということは本実践の成果と言える。



生徒間の交流の様子

生徒の振り返り抜粋

- ・それぞれの人の価値観や見方を理解しないと「誰もが安心できる社会とは」という問いには解答できないと思った。だからこそ、まわりの人が思う「安心」について聞き、少しずつ問いへの答えにたどりつけたらいいと思う。
- ・障がいをもつ人に対して「かわいそう」と思うのではなく、障がいをもつ人の目線で気持ちを考えることが大切だと思った。
- ・困っていることを見つけたらまずは、声をかけていくことが大事な一歩だと感じた。
- ・相手とコミュニケーションを取りながら相手のことを知り、自分にできることを考えた。
- ・他の人の意見を聞いて、「こんな意見もあるのか」と初めて気づくことができた。

ESD の取組を行うにあたって、指導する側である教員の変容もとらえることができた。本校 1 年は、7 クラスある。各クラスで授業を行うために、授業前には検討会を行った。各クラスの進捗状況や、今後の予定等をすり合わせていく中で、教師同士の中の交流においても多様な意見に触れることで新たな考えにいたることが多くあった。やはり、授業する側が、生徒につけさせたい力はなにかを明確にとらえる必要があると考える。そして、そのねらいのもとに生徒の考えや意見をファシリテートしていきたいと思う。検討会を随時行うことは、指導のねらいを共有し、どのように生徒が変容していったらほしいのかを考えるうえで重要なものであった。また、教師が中心に授業を進めていくという従来型の考えから、授業の内容やねらいを明確にすり合わせたことで、生徒が中心に授業を進めていくという考えに変わった点も本実践の成果であろう。

最後にカリキュラムマネジメントについて、本実践を行った時期には、総合的な学習の時間において「防災学習」にも取り組んだ。本単元で学んだことを次は災害弱者の視点でも考えてみることで単元を超えた、学習につなげることができた。学習を一単元で途切れさせずに継続的に教科間を往還することができていたのも本実践の成果だ。

課題

本単元で予定していた障がい体験だが、時間数の兼ね合いもあり、削ることとなってしまった。やはり、生徒が人と出会い、体験するという活動は学習の中で取り入れるべきであると考えている。自分とは違う年代、価値観、考えをもつ人から話を聞いたり、実際に体験をしたりすることは自分の新たな考えに気づき、人権意識の醸成にもつながるだろう。今後、カリキュラムマネジメントをするうえで時間数の確保や単元の見通し、地域との連携をしていくことが最重要になると感じる。単元を組み立てる中で始めにねらいを見通した設定ができるようにしたい。また、教科との往還も意識していきたい。総合的な学習の時間の中だけでは、ESD の資質・能力を十分に身につけることは難しいと考える。本単元において身に付けさせたい「批判的に考える力」「コミュニケーションを行う力」も一単元で身に付くものではないと考える。だからこそ、他教科でも、この視点で、ねらいで、授業を構成していくことが必要なのだと考える。今回の「人権学習」を通して考えたことを違う教科にもつなげ、持続可能な社会を創る視点で広く表現力やコミュニケーション力を身につける学習を行っていきたい。

ESD に視点を置いて日常的に生徒と関わることも重要であると本単元を通して気付いた。「差別」や「人権侵害」は日常の中で起きる。だからこそ大人も子どもも「多面的に」「批判的に」考える力をつけることは必要である。視野を広げ、疑問を持ち続け物事を見ていくことで「誰もが安心して、心地よく暮らせる社会を創っていく」ことができるのではないかと。本単元を通して、これからの課題意識をもつことができたと感じる。



現在の学年終了時に目指す姿
 人権学習を通して、障がい者理解を深め、「誰もが『安心』して暮らせる世の中とはどのような社会なのだろうか？」というテーマについて、生徒が考え、将来にわたって人権を大切にできる態度を身につけることができる。

相手にわかりやすく伝えたい!

国語科「情報を整理して説明しよう」
 人権学習では、様々な知識を身につける。その知識を正しく整理し、自分の言葉で伝えられることが重要である。本単元で学んだことを整理し、自分の考えをわかりやすくまとめ、他者と交流することを通して、目的や相手に応じた表現ができるようにしたい。

技術・家庭科「社会の発展と材料と加工の技術・持続可能な住生活」
 ユニバーサルデザインについて学ぶとともに、社会にどのようなものが存在するのか学ぶ。また、地域に密着したユニバーサルデザインに気付く。

地域にはこんなものがあるんだ!

総合的な学習の時間「安心して過ごせる社会を創るために～障がい者理解を中心に考える～」
 ○主に養いたい ESD の資質・能力
批判的に考える力
 様々な事象に対して疑問を持ち、誰もが安心して暮らせる社会を考えることができる。
コミュニケーションを行う力
 多くの人と意見を交流し合いながら、新しい考えを生み出したり、まとめたりすることができる。
進んで参加する態度
 これからの社会をよりよくしようとするために行動できる。
 ○主に育てたい ESD の価値観
人権・文化を尊重する。(文化多様性の尊重)
 一人ひとりの人権に目を向け、誰もが尊重し合える世の中にする。
幸福感に敏感になる。幸福感を重視する。
 自分たちの手で、今、そしてこれから生きていく社会をよりよくし、人生が豊かになるようにする。

誰もが安心できる地域にしよう!

世界に発信できるように、英語をつかいたいなあ

英語科「ThinkGlobally,ActLocally」
 人権学習で学んだことを、世界規模で考えることをしたい。また、世界に目を向け、諸問題を解決するために何ができるのかということを考える。自分の身の周りだけでなく地球規模で考えることで、視野を広げる助けとしたい。

総合的な学習の時間「老上防災 education」
 地域の防災学習を進める中で、「障がい者のことも考えられているのか？」という問いかけをしていく。そうすることで、また違った視点から防災について考えることができる。多面的に物事を考える力を養う助けとしたい。